公立大学法人奈良県立医科大学

第2期中期目標(案)

奈 良 県

平成25年 月

目 次

分野	項目	頁

前文 中期目標の期間		2 2
		_
I 地域貢献		3
(教育関連)	1 医療人の育成(医師関連)	3
	医師派遣システムの適切な実行	3
	医療人の育成(看護師関連)	3
(研究関連)	2 看護師の地域貢献	4
(別九月建)	3 研究成果等の地域への還元	4
	4 健康増進の県民アプローチの充実	4
(診療関連)		_
	5 断らない救急医療体制の整備 6 周産期医療体制の強化	5 5
	7 他の医療機関との連携強化	5
	8 県内医療人への助言・指導	6
т */- 		7
Ⅱ 教育	1 リベラルアーツ教育の実践	7 7
	医の心をもった医療人の育成	7
	医療経営に関する教育の確保	7
	2 教育内容の評価 3 老朽・狭隘施設への対策	7 7
	3 名"万" 沃陆旭設、〇分列東	,
Ⅲ 研究		8
	1 研究の適切な成果評価 2 有能な研究者の獲得	8
	2 有能な研究者の獲得 3 健康·予防医療等研究範囲の拡大	8 8
	4 研究環境の改善	8
π7 - Δ.r ±		•
Ⅳ診療	1 医師・看護師等の離職防止と人材確保	9 9
	2 がん拠点病院としての機能の充実	9
	3 治療成績の一層の向上	9
	4 患者満足の一層の向上 5 老朽・狭隘施設への対策	10 10
	3 名作 沃隘加設入切別 泉	10
Ⅴ まちづくり		11
	1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備	11
	2 地域に開かれたキャンパスづくり3 教育・研究部門等移転後の跡地活用	11 11
	4 移転を契機とした研究分野での地域貢献	12
	5 健康づくり・予防医療等への貢献	12
VI 法人運営		13
VI 丛八连占	1 ガバナンス体制の充実強化	13
	2 ワークライフバランスの充実強化	13
	3 同窓会・歴代卒業生との連携 4 繰越欠損金の解消	13 13
	する体色人は立り作用	13

前文

奈良県では、日本一の健康長寿立県として、県民が安心して健やかに 生活できるまちづくりの実現を目指している。

奈良県立医科大学(以下、医科大学という)には、県内唯一の医育機関として、また県内医療の中核的な病院として、県の目指す健康長寿の取り組みに積極的に関与し、その重要な一翼を担っていただきたい。

第1期中期目標期間においては、厳しい経営状況のなか理事長のリーダーシップのもと一丸となって、教育・研究・診療の質の向上や業務運営の改善等に取り組まれ、その結果、当期純利益を計上するなど一定の成果を挙げられた。

一方で、地域に貢献できる医師・看護師の輩出、幅広い知識や教養を持った医療人の育成、教育・研究部門移転を契機としたまちづくりの具現化や教育・研究分野の充実といった事項が継続課題として残った。

これらの課題を解決するため、第2期中期目標は、第1期でも位置づけている「教育」「研究」「診療」「法人運営」に加え、「地域貢献」「まちづくり」を新たに追加して構成した。

策定にあたっては、医療関係者や近隣自治体の方々と直接協議する場を持つとともに、医科大学と協議を重ね、中期目標と中期計画を一体の者として捉えるとともに、成果目標を明確化し、PDCAサイクルが的確かつ実効的に機能するような仕組みを取り入れることとした。

これまで県において構想を掲げて進めてきた教育・研究部門の移転と 移転後のまちづくりが、平成25年度から平成30年度までの第2期中期 目標期間内にいよいよ計画段階から実施段階に入ってくることとなる。

医科大学にとって、大学・病院の将来像を決定する非常に重要となるこの時期に、全教職員が一丸となって、この中期目標の達成に向けて取り組み、医科大学が大いに飛躍されることを期待する。

中期目標の期間

平成25年4月1日~平成31年3月31日

I 地域貢献<教育関連>

1 医療人の育成(医師関連) 医師派遣システムの適切な実行((仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営)

◆現状あるいは課題

(現状)

•医学科

県内就職率 49%(H19~H23平均) 県内就職者数 51名(H24)

(課題)

- 医師の県内の供給機能の一層の向上が必要

◆成果目標

<u>・(仮称)県立医大医師派遣センターを設</u> 置・運営する

<u>・医学科学生の県内卒後臨床研修病院</u> への就職率を60%まであげる

医師派遣システムの適切な実行((仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営)

◆現状あるいは課題

(現状)

H22~24

地域医療学講座がキャリアパスを構築。

H23~

地域医療学講座が県費奨学生の配置案作成地域医療総合支援センターで協議のうえ配置 ≪県費奨学生6名を配置≫

H22~

地域医療学講座が脳卒中の診療体制の研究 H24

地域医療学講座が初療・後療モデルを提案 ≪具体的な医師配置には結びついていない≫

(課題)

・医師派遣システムの適切な実行が必要

◆成果目標

<u>• (仮称) 県費奨学生配置センターを設</u> 置•運営する

<u>・最適な医師配置を実現(公立公的病院</u> <u>等からの要望に対応)配置数を40名に</u> する

<u>・地域に貢献する医師の育成数を86名</u> にする

医療人の育成(看護師関連)

◆現状あるいは課題

(現状)

•看護学科

県内就職率 43%(H19~H23平均) 県内就職者数 33名(H23)

(課題)

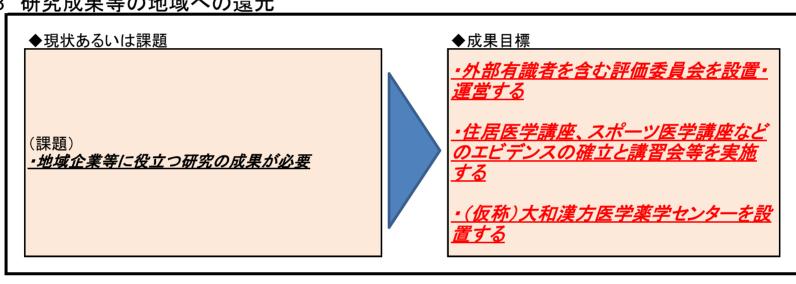
- 看護師の供給機能の一層の向上が必要

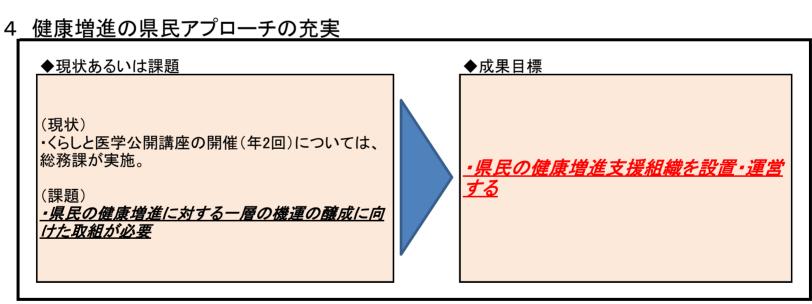
◆成果目標

|<u>・看護学科卒業後の県内就職率を60%</u> |まであげる 2 看護師の地域貢献 ◆現状あるいは課題 ◆成果目標 (現状) ・認定看護師 20名 ・認定看護師や専門看護師の総数を1. • 専門看護師 3名 ※H24.11.7現在 5倍にする (課題) ・地域の看護師のレベルアップが必要

地域貢献 < 研究関連 >

3 研究成果等の地域への還元





地域貢献<診療関連> T

5 断らない救急医療体制の整備

◆現状あるいは課題

(現状)

・高度救命救急センターの受入率 85.7%(H23)、 72.5% (H22)

(課題)

・重篤な救急患者の100%受入が必要

◆成果目標

重篤な救急患者を断らないシステムを

<u>・重篤な救急患者の高度救命救急セン</u> ターの受入率を100%に近づける

・県内救急搬送のコーディネート機能を 運用する

6 周産期医療体制の強化

◆現状あるいは課題

(現状)

・奈良県における周産期搬送の状況(H23) 県外搬送実績(県外搬送数/総数、県外搬送 率)

> 母 体(21名/275名、7.6%) 新生児(0名/147名、0.0%)

(課題)

- 周産期患者(新生児・母体搬送)の100%受入が <u>必要</u>

◆成果目標

<u>・新生児・母体の県内搬送率を100%に</u> 近づける

7 他の医療機関との連携強化

◆現状あるいは課題

(現状)

・地域医療連携パス運用件数 137件(H23)

・H21. 10 緩和ケアセンター設置 ・紹介率 67.8%、逆紹介率 35.4%(H19~H23平 均)

(課題)

<u>『脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患』の</u> <u>地域医療連携パスの充実と運用システムの確立が</u> <u>必要</u>

<u>・県内医療機関における緩和ケアのレベルアップが</u> <u>必要</u>

・地域医療機関との連携体制の強化が必要

◆成果目標

・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精 神疾患」の地域医療連携パスの運用件 数を200件に増やす

・認知症疾患医療センターを設置する

・中核的な緩和ケアセンターを設置・運 営する

8 県内医療人への助言・指導

◆現状あるいは課題

(現状)

- ・地域医療連携懇話会 2回開催(H23)
- -在宅医療を支えるシステム(H23.11) -奈良県の周産期医療ネットワーク構築のための 地域医療連携(H24.3)
- -地域医療連携パスの成果と今後(H24.10)

(課題)

<u>・県内医療機関の医療技術や診療レベルの向上が</u> 必要

◆成果目標

<u>・医療関係者に対する研修会等の開催</u> <u>回数を倍増する</u>

Ⅱ 教育

1 リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保

◆現状あるいは課題

(現状)

- ·学外講座の受講者数(単位互換数)7名(H24)
- ・「医師の言葉づかいや態度に対する患者満足度調査結果 入院96.1%、外来80.1%」(H23)
- ・医学科「医師になる強い自覚を持った学生」の割合 30.6%(H22)
- ・看護学科「看護師になる強い自覚を持った学生」の 割合 33.2%(H22)

(課題)

- <u>・具体な目的・目標を掲げ、幅広い教養も修得した</u> 医療人の輩出が必要
- <u>・必ず診るという医師としての社会的使命と責任の</u> 自覚が必要
- <u>・今後の医療人のあるべき姿として、必要な経営概</u> 念の理解・修得が必要

◆成果目標

- <u>・リベラルアーツ教育に沿った新カリキュ</u> ラムを導入する
- <u>・外部有識者を含む一般教育検討委員</u> 会を設置・運営する
- <u>・医師・看護師の理想像を理解し、医師・</u> 看護師になる強い自覚を持った学生の割 合を90%まであげる
- <u>・大学院への医科学専攻医療経営学科</u> 目を設置する

2 教育内容の評価

◆現状あるいは課題

(現状)

・カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合(H22)

医学科 約60%、看護学科 約30%

(課題)

- <u>・在学生アンケートの授業に対する満足度の向上が</u> 必要
- <u>・時代に即したより良い教育を行うための適宜適切</u> な教育内容の評価の実施が必要

◆成果目標

- <u>・カリキュラムと授業の進め方に「不満」・</u> 「大いに不満」な学生の割合を半減する
- ・評価体制の構築と評価を実施する

3 老朽・狭隘施設への対策

◆現状あるいは課題

(現状)

・施設に満足している学生の割合 25%以下(H22学 生満足度調査)

(課題

<u>・老朽かつ狭隘な施設への対策が必要</u>

<u>◆成果目標</u>

- <u>・平成33年中の新キャンパスオープンを</u> <u>目指す</u>
- <u>・教育・研究部門等移転対策検討委員会</u> を設置する

Ⅲ 研究

1 研究の適切な成果評価

◆現状あるいは課題

(現状)

·研究実績(H23)

受託研究等 304件、新規共同研究 20件、寄附講座 4講座、新規文部科学省科学研究費補助金 63件、 独自研究 不明

(課題)

・研究項目毎に適切な成果評価が必要

◆成果目標

<u>・外部有識者を含む評価委員会を設置・</u> 運営する

2 有能な研究者の獲得

◆現状あるいは課題

(現状)

・学生・若手の基礎医学系の研究者が不足

(研究部門への学生の修学希望や研究者の研究希望の伸び悩み)

・PubMed対象の英文学術論文数214件(H23)

※PubMed:アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス

·基礎医学系教員育成数 2名(H24)

(課題

・研究成果の積極的な発信などによって、医科大学 の認知度の向上が必要 ◆成果目標

・基礎医学系教員を14名以上育成する

3 健康・予防医療等研究範囲の拡大

◆現状あるいは課題

(課題)

<u>・県民の健康や予防医療に繋がる研究の推進が必</u> 要 <u>◆成果目標</u>

<u>・リビングサイエンスの推進に向けた具体</u> 的な研究を実施し、県内へ普及する

4 研究環境の改善

◆現状あるいは課題

(現状)

・研究施設(築35年~50年)の老朽化が著しい。

(課題)

*老朽かつ狭隘な施設への対策が必要

◆成果目標

<u>・平成33年中の新キャンパスオープンを</u> <u>目指す</u>

<u>・教育・研究部門等移転対策検討委員会</u> を設置する

IV 診療

1 医師・看護師等の離職防止と人材確保

◆現状あるいは課題

(現状)

- ・医師の長時間の拘束などによる疲労度の増大が顕著
- ・看護師が慢性的に不足
- ·女性医師数(女性の臨床医学教員)23名(H24.4現 在)
- ·看護師の離職率 7.49%(H23)

(課題)

・医師・看護師等の離職防止と人材の確保が必要

◆成果目標

- <u>・女性医師数を35名に増やす(後期臨床</u> 研修医を除く)
- ・看護師の離職率を5%未満にする
- ・就業規則を見直す
- <u>・ワークライフバランス検討委員会を設置</u> する

2 がん拠点病院としての機能の充実

◆現状あるいは課題

(現状)

- ・腫瘍センター及び放射線腫瘍医学医師数 6名(H24 大学概要)
- •がん治療件数計30.825名
- (放射線治療のべ患者数20,632名(H23)、化学療法のべ患者数(入院・外来計)10,193名(H23))

(課題)

- <u>・がん治療対策として、放射線治療・核医学科や腫</u> 瘍センター等の医師の充足が必要
- ・看護師を含めたチーム医療体制の充実強化が必 要

◆成果目標

- <u>・がん診療に特化した医師数を倍増する</u>
- <u>・がん治療のべ患者数を35,000名に増や</u> す

3 治療成績の一層の向上

◆現状あるいは課題

(課題)

- <u>・診療の質に対する現状分析と一層の質の向上が</u> <u>必要</u>
- <u>・臨床指標(クリニカルインディケーター)等について</u> <u>一層の情報発信が必要</u>

◆成果目標

- <u>・臨床指標(クリニカルインディケーター)</u> の設定と改善をする
- <u>・臨床指標をホームページへ掲載し、毎</u> 年<u>更新する</u>
- ・診療内容向上委員会を設置・運用する

4 患者満足の一層の向上

◆現状あるいは課題

(現状)

・今後も医大を受診したいと思う人の割合(外来) ・診療内容に総合的に満足している人の割合(入院) ともに概ね90%(H23)

(課題)

- <u>・診療内容に総合的に満足している人の割合の一</u> 層の向上が必要
- <u>・医療人の一層のホスピタリティマインドの醸成が必</u> 要

◆成果目標

- <u>・入院・外来の診療内容に総合的に満足</u> している人の割合90%以上を維持する
- <u>・診察の待ち時間が長いと感じる人の割</u> <u>合を年1%ずつ減少する</u>
- <u>・ホスピタリティマインド向上委員会を設</u> 置・運営する

5 老朽・狭隘施設への対策

◆現状あるいは課題

(現状)

- ・診療関連施設の老朽化等が著しい(病院本館旧館 は築50年)
- 外来患者が増大

(課題)

<u>・老朽かつ狭隘な施設への対策が必要</u>

◆成果目標

- <u>・(仮称)中央手術棟の平成27年度中の</u> <u>オープンを目指す</u>
- <u>・教育・研究部門移転後の病院の整備計</u> <u>画を策定する</u>
- <u>・教育・研究部門等移転対策検討委員会</u> |<u>を設置する</u>

Ⅴ まちづくり

1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備

◆現状あるいは課題

(現状)

- ・大学施設の老朽化が著しい。
- ・医大の敷地が狭隘であり、建て替え用敷地等が不足している

(課題)

<u>・教育・研究部門の移転と適切・妥当な新キャンパス</u> の整備が必要 ◆成果目標

- <u>・平成33年中の新キャンパスオープンを</u> 目指す
- ·教育·研究部門等移転対策検討委員会 を設置する

2 地域に開かれたキャンパスづくり

◆現状あるいは課題

(課題)

<u>・移転に伴い整備される緑地等の地域住民への開</u> 放 ◆成果目標

- <u>・平成33年中の新キャンパスオープンを</u> <u>目指す</u>
- <u>·教育·研究部門等移転対策検討委員会</u> <u>を設置する</u>
- 3_教育・研究部門等移転後の跡地活用

◆現状あるいは課題

(趙壮)

·診療関連施設の老朽化等が著しい。(病院本館旧館は、築50年)

(課題)

- ・時代に即応した高度先進医療の提供が必要
- <u>・移転跡地を効率的・効果的に活用した健康まちづく</u> <u>り等施設の整備に向けた協力が必要</u>
- <u>・教育・研究部門の移転と適切・妥当な新キャンパス</u> の整備が必要

◆成果目標

- <u>・平成33年中の新キャンパスオープンを</u> 目指す
- <u>・教育・研究部門移転後の病院の整備計</u> <u>画を策定する</u>
- <u>・教育・研究部門等移転対策検討委員会</u> <u>を設置する</u>

4 移転を契機とした研究分野での地域貢献

◆現状あるいは課題

(課題)

·教育·研究部門の移転に伴った、教育·研究部門 の一層の充実・発展が必要 <u>◆成果目標</u>

<u>・外部有識者を含む評価委員会の設置・</u> 運営する

<u>・住居医学講座、スポーツ医学講座など</u> <u>のエビデンスの確立と講習会等を実施す</u> る

<u>・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設</u> 置する

5 健康づくり・予防医療等への貢献

◆現状あるいは課題

(課題)

・「医科大学を中心としたまちづくり」に併せ、健康づくり等の推進に向けた医大周辺の整備への医科大学の参画が必要

◆成果目標

<u>・リビングサイエンスの推進に向けた具体</u> 的な研究を実施し、県内へ普及する

VI 法人運営

1 ガバナンス体制の充実強化

◆現状あるいは課題

(現状)

・正規職員として1,600名が在籍。(約半数がプロパー 職員)

(課題)

<u>・全教職員一丸となって法人運営にあたるという機</u> 運の醸成が必要 ◆成果目標

<u>・評価委員会の全体評価で好成績をあげ</u> る(項目別<u>評価から除外)</u>

2 ワークライフバランスの充実強化

◆現状あるいは課題

(現状)

・医師・看護師の離職。看護師の年間離職者数があまり減少してこない

・年間平均年給取得日数 医師3.0日、看護師4.1日、 コメディカル5.9日、事務4.9日(H22)

(課題)

・勤務している職員の満足度の向上が必要

<u>・仕事と生活のバランスがとれた勤務環境や体制の</u> 構築が必要 ◆成果目標

・現状の年休取得日数を倍増する

*就業規則を見直す

<u>・ワークライフバランス検討委員会を設置</u> する

3 同窓会・歴代卒業生との連携

◆現状あるいは課題

(現状)

·寄付件数 876件(H23財務諸表)

(課題

<u>・一層の発展を目指した、歴代卒業生の協力・支援</u> の要請が必要 <u>◆成果目標</u>

- 寄付件数を1,000件まであげる

4 繰越欠損金の解消

◆現状あるいは課題

(現状)

・平成22・23年度と2年連続して単年度収支が黒字決算。(2カ年合計で8億4千万円)

・繰越欠損金の額 9億6千万円(H23年度末)

·未収金(個人負担分)残高 2億99百万円(H23年度末)

(課題)

<u>・繰越欠損金の解消が必要</u>

◆成果目標

<u>・第2期中期目標期間中に繰越欠損金を</u> <u>解消する</u>